

## 事例7 「話し言葉と書き言葉の特徴を踏まえながら、聞き手に伝わるように構成を考えスピーチすること」をねらった事例

- 学年 第2学年
- 主な領域 [思考力、判断力、表現力等] A話すこと・聞くこと
- 事例のポイント
  - ①生徒が学習する内容を意識して取り組めるようにする。
  - ②生徒自身が学習の進捗に合わせて、学習方法や学習内容を選択することができるようにする。
  - ③リハーサル後に原稿を再検討する時間を設け、学習の深化を図る。
  - ④評価の場면을焦点化し、学級全体でスピーチする時間を短縮して、生徒の活動場を増やす。

### ICTを活用した主な学習場面

- ・モデルを視聴する場面
- ・原稿を作成する場面

### ICT活用の利点

- ①生徒がいつでもモデルを見ることができる。
- ②構成の変更を容易にすることができる。

## 1 単元名・教材名 聞き手にとって魅力的なスピーチをしよう～「聞き手に伝わる構成」編～ 「魅力的な提案をしよう」

## 2 生徒の実態と本単元の意図

本学級の生徒は、第1学年時に「話の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係」に気を付けながら、スピーチをする学習を行った。生徒たちは文末の書き方や接続詞に気を付けながら、自分の考えを明確にして、スピーチの構成を考えることができるようになってきた。ただ、自分の伝えたい内容に注力することができるようになった一方で、聞き手を意識した根拠の適切さや話す事柄の順序に課題が見られる。

本教材は、最終的にA(1)ウ「資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。」をねらいとしたものである。しかし、本教材にもあるとおり、資料や機器を適切に用いるためには、話の要点や根拠を明らかにしたり、中心となる事柄を捉えたりする必要がある。そこで、本単元ではA(1)イ「自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫すること。」に重点をおき、指導していく。本学習を踏まえた上で、次の単元を「『効果的な資料や機器の使い方』編」として、計画する予定である。

本単元では、まずモデルとなるスピーチを三つ紹介する。それぞれのモデルは「生徒にとって身近なモデル」、「年齢が近いモデル」、「将来的なモデル」をイメージし、準備した。今回の目標である「根拠の適切さや論理の展開」という視点を持ちながら動画を視聴することで、生徒の中で目標に具体性が出るように留意する。そして、生徒それぞれに具体的なイメージがもてたことを確認し、スピーチの準備を行う。リハーサルについては、第3時に設定した。準備が不十分であることも想定されるが、スピーチが完成していないからこそ、友達の助言を踏まえて、原稿の改善を図れたり、助言する側も課題点を指摘しやすかったりすることが考えられ、より活発な交流につなげることができる。

スピーチ本番については、小グループにて実施する。これまでクラスでスピーチをすることがあったが、30人以上が3分程度スピーチするとなると、多くの授業数が必要となる。本単元の目標はあくまで「根拠の適切さや論理の展開」であることを鑑みて、ワークシートによる評価とした。そうすることで、単元の時数を短くすることができることに加え、生徒それぞれの準備時間を多く取ることができると考えた。また、総括的な評価についても、即時的に行ったり、撮影して見直したりすることをせずに実施できる。以上のことを踏まえ、本単元を設定した。

### 3 単元の見直し

- (1) 話し言葉と書き言葉の特徴について理解することができる。 〈知識及び技能〉(1)イ
- (2) 自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫することができる。 〈思考力、判断力、表現力等〉A(1)イ
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 〈学びに向かう力、人間性等〉

### 4 本単元における言語活動

構成に注意しながら、説明や提案など伝えたいことをスピーチする活動。

(関連：言語活動例ア)

### 5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①話し言葉と書き言葉の特徴について理解している。 (1)イ	①「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫している。 (A(1)イ)	①粘り強くスピーチ原稿を考え、学習課題に沿って伝えたい内容が明確になるように、スピーチできたかを振り返ろうとしている。

### 6 指導と評価の計画 (全5時間扱い)

時	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習のねらいや進め方をつかみ、学習の見通しをもつ。</li> <li>○これまでの自分のスピーチを振り返る。</li> <li>○スピーチのモデルとなる動画を視聴し、そのよさを考える。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">編 P36 指導計画作成の留意事項(8)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○根拠の適切さ</li> <li>○論理の展開</li> </ul>	<p><b>ICT活用の利点①</b> 自分の課題を見付けるために、モデルを複数回見られるように環境を整備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○モデルは「本校生徒会長のスピーチ」(生徒にとって身近なモデル)、「青少年の主張大会のスピーチ」(年齢が近いモデル)、「企業の理事」(将来的なモデル)のスピーチを提示する。</li> <li>○表現の工夫だけに注目することがないように指導する。</li> </ul> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">本時は、「主体的に学習に取り組む態度①」の評価規準に基づいて学習状況を捉え、指導に活かす評価とする。</p>
	<p><b>事例のポイント①</b> スピーチで注目されがちな身振り手振りや目線、資料の提示方法などだけに着目しないように留意する。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スピーチする題材を検討する。</li> </ul> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">スピーチテーマ 係・委員会の経験を職場体験にどのように生かすことができたのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○スピーチメモを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○題材の決定</li> <li>○根拠の適切さ</li> <li>○論理の展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○振り返りシートを活用し、生徒それぞれの学習の様子を確認する。</li> <li>○原稿は、紙媒体とデータ媒体を提示し、自身が使いやすいものを選択するように伝える。</li> <li>○ICT端末のカメラ機能やディクテーション機能を活用してもよいことを確認する。</li> </ul>

2	<p><b>事例のポイント②</b> 生徒が必要感をもったときに活用できるツールを事前に提示し、生徒が学習を進めるときに、課題となるものが少なくなるようにする。</p> <p>〈使用するワークシートの例〉</p> <table border="1" data-bbox="295 436 837 952"> <tr> <td data-bbox="343 436 710 728">ここにスピーチメモを記述する。</td> <td data-bbox="710 436 837 728"> <small>◎構成メモ 話す内容（箇条書きでも可）</small> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="343 728 710 952">ここにその構成にした意図を書く。記号や矢印を活用することも想定される。</td> <td data-bbox="710 728 837 952"> <small>中心的部分（骨）と付加的部分（肉）、それらの順番やつながりを工夫しよう その構成にした意図</small> </td> </tr> </table> <p>〈生徒の記述例〉 【話す内容】自分の職場体験の経験 委員会で頑張ってきたこと 【構成の意図】 二つの経験を順に話をする。その後、共通点を示し、学校生活と職場体験がどのようにつながっているのかを伝える。</p>	ここにスピーチメモを記述する。	<small>◎構成メモ 話す内容（箇条書きでも可）</small>	ここにその構成にした意図を書く。記号や矢印を活用することも想定される。	<small>中心的部分（骨）と付加的部分（肉）、それらの順番やつながりを工夫しよう その構成にした意図</small>	<p>○前時に提示したモデルをすぐに見られるようにしておく。</p> <p>○スピーチのメモは原稿として記述しても、話す項目のみ書き出してもよいことを伝える。ただし、その構成や論理の展開にした理由を明確にするように指導する。</p> <p>○評価の際は意図をもって構成を考えられているかを確認する。</p> <p>○「書くこと」に課題が見られる生徒に対しては個別に話を聞いて、教師が意図を補うことも想定される。</p> <p>○紙とデータのワークシートを用意し、生徒が選んで取り組むことができるようにする。</p> <div data-bbox="901 1052 1428 1265" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【知識・技能①】</b> ワークシート ・ここでは、話し言葉の特徴を踏まえて、原稿を記述したり・修正したりしているかを確認する。</p> </div>
ここにスピーチメモを記述する。	<small>◎構成メモ 話す内容（箇条書きでも可）</small>					
ここにその構成にした意図を書く。記号や矢印を活用することも想定される。	<small>中心的部分（骨）と付加的部分（肉）、それらの順番やつながりを工夫しよう その構成にした意図</small>					
3	<p>○小グループでスピーチのリハーサルを行う。</p> <p>○聞き手を意識した、話の構成</p> <p>〈想定されるリハーサルでの話合いの一部〉 Aさん： 職場体験と委員会のつながりがわかりやすかったです。ただ、結論で「自分の将来の夢に向かってこれからも頑張っていきたいです。」と話していたのですが、職場体験と委員会の経験がどのように自分の頑張りにつながるかが分かりづらかったと感じました。 Bさん： なるほど。それなら、自分の将来の夢について少し触れたほうが聞き手にとってわかりやすいかもしれないですね。 …（話合いが続く）</p>	<p>○小グループは、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの声が聞きやすいこと</li> <li>・助言がしやすいこと</li> <li>・極力多くの友達のスピーチを聞くことができること</li> </ul> <p>を踏まえて、6人一組で実施する。なお、スピーチ本番ではグループを変更することで多様なスピーチを聞けるように工夫する。</p> <p>○身振りや抑揚など表現の工夫だけではなく、音声として内容がわかるかどうかを確認することを伝える。</p> <p>○話し言葉と書き言葉との違いについて考えたことを踏まえながら、原稿を加筆・修正することを指導する。</p> <p>○加筆・修正したところは赤字にすることを伝える。</p>				

	<p>○リハーサルを踏まえて、原稿を加筆や修正する。</p>	<p>○話し言葉の特徴</p>	<p>編 P36 指導計画作成の留意事項(9)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度①】 ワークシート ・ここでは、自身のスピーチのよかった点や課題点について振り返っているかを確認する。</p>
4	<p>○リハーサルを受けて、自身のスピーチの課題や工夫したいことについて考え、スピーチ本番に向けた準備を行う。</p> <p><b>ICT活用の利点②</b> 文書作成ソフトを活用することにより、よりよい段落の構成や表現について繰り返し考えられるようにする。</p>	<p>○根拠の適切さ ○論理の展開</p> <p>編 P35 指導計画作成の留意事項(2)</p>	<p>○リハーサルを踏まえて、友だちとリハーサルをしたり、録画したりするなど必要な学習方法を検討するように指導する。</p> <p>【思考・判断・表現①】 ワークシート ・ここでは、意図をもって話の構成を検討することができるかを確認する。</p>
5	<p>○小グループでスピーチを行う。</p> <p><b>事例のポイント④</b> 単元の評価をワークシートで行うことで、スピーチ本番の時間を短縮するとともに、努力を要する生徒のスピーチを重点的に見て、指導する場面を設ける。</p> <p>○単元のまとめを行う。 ○次回のスピーチに向けて、課題や工夫について考えながら、単元の振り返りを行う。</p> <p>〈期待したい生徒の記述〉 今回の学習では、構成と論理の展開について考えた。聞き手にとってわかりやすくするためには、経験と主張を明確に分けることが大切であると感じた。話し言葉は書き言葉と違い、読み返すことができない。そのため、作文とは意識を変えて、原稿やメモを作成する必要があると思った。</p>	<p>編 P36 指導計画作成の留意事項(10)</p> <p>○根拠の適切さ ○論理の展開 ○振り返りの仕方</p>	<p>○教師はタイムキーパーをしながら、それぞれのグループのスピーチの様子を観察する。 ○観察の際、記述からではわからない生徒のスピーチを重点的に見ることを意識し、評価の充実を図る。 ○リハーサルと小グループを変更することで、多様なスピーチを聞く場を設定できるようにする。</p> <p>○本単元での学習を生徒が想起できるようにした上でまとめを行う。 ○次回のスピーチに関する課題や目標も記入することを伝える。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度①】 ワークシート ・ここでは、意図をもって構成を工夫しながら、メモを考え、スピーチをすることができたか、振り返っているかを確認する。</p>

7 本時の学習指導（本時1 / 5時）

(1) 目標

- 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしていって、思いや考えを伝え合おうとする。 〈学びに向かう力、人間性等〉

(2) 評価規準

- 本時は、「主体的に学習に取り組む態度①」の評価規準に基づいて学習状況を捉え、指導に活かす評価とする。 **【主体的に学習に取り組む態度】**

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時間
1 学習のねらいや進め方をつかみ、学習の見通しをもつ。  自分のスピーチを振り返り、自分の伸ばしたいところを考えよう。	○既習事項	○前単元で行った自身のスピーチを想起し、よりよいスピーチについて考えるよう助言する。 ○目標を明確に示し、本単元でどのような力を身に付けるのかを確認できるように進める。	2
2 これまでの自分のスピーチを振り返る。	○自身の学習の様子の捉え方	○話し方だけに注視することのないように指導する。	8
3 モデルを見るときに気を付けたい観点を考える。	○根拠の適切さ ○論理の展開	○頭括法や尾活法、主張と根拠の関係など既習事項を確認しながら観点を考えるように支援する。	5
4 <u>スピーチのモデルとなる動画を視聴し、そのよさを考える。</u>  <b>事例のポイント①</b> スピーチで注目されがちな、身振り手振りや目線、資料の提示方法などだけに着目しないように留意する。	○観点をもったスピーチの見方・考え方	○モデルは「本校生徒会長のスピーチ」（生徒にとって身近なモデル）、「青少年の主張大会のスピーチ」（年齢が近いモデル）、「企業の理事」（将来的なモデル）のスピーチを提示する。 ○ <u>表現の工夫だけに注目することがないように指導する。</u>	30
〈生徒の記述例〉 「青少年の主張大会のスピーチ」 自分のエピソードを具体的に話したあと、震災のニュースを提示している。二つのエピソードから自分が考えたことを整理しながら話を進め、主張につなげており、わかりやすい。		<b>ICT活用の利点①</b> 自分の課題を見付けるために、モデルを複数回見られるように環境を整備する。	
5 学習の振り返りをすすめる。  〈期待される生徒の振り返り〉 前回のスピーチでは、題材を決めて話すことができたが、自分が一番伝えたいことが聞き手によく伝わらなかった。理由を聞いてみると、「エピソードは印象的だったが、それがなぜ主張につながるのかが、わからなかった」と言われた。そこで、「青少年の主張大会のスピーチ」のように自分の経験と主張とのつながりを明確にししながら、スピーチメモを作っていきたい。	○振り返りの仕方	評価規準 <b>【主体的に学習に取り組む態度①】</b> <b>観察</b> ・ここでは、自身の1学期のスピーチの振り返りとモデルとの違いについて着目し、今後の学習について考えがまとめられているかを確認する。 〈努力を要する〉状況(C)への手立て ・モデルのよいところを見付け、真似してみたい部分を挙げるように指導する。	5